

## 令和 2 年度 亀田東児童館事業実施報告書

## 1 実施した事業

## 2 自己評価

## 3 課題と対応

## 1 健全な遊びを通した児童の集団及び個別指導

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために全国に出されていた「緊急事態宣言」に伴い、4月19日～5月19日まで休館。再開後は、濃厚接触・不特定多数の方が集まるイベントは当面中止としたが、「新しい生活様式」が守れるように、新しい遊び方・遊びの提供を行った。

## ① つくってみよう！（創作活動室）

## （自己評価）

今年度は、毎月1つずつ工作を準備し、来館時にいつでも自由に製作が楽しめるよう、簡単な工作を常時提供した。創作活動室に全ての材料を準備し、作りたい人が作りたい時に製作出来るように環境を整えた。今までは、「バラバラにしてしまうのでは」「片付けが出来ないのでは」「机が汚れるのでは」等と危惧していたが、子ども達の自主性を信じ、新たな提供の方法を実施した。結果、子ども達の製作意欲に火をつけることになり、職員一同新しい発見となった。

また、製作日が限定されなくなったため、今まで各々の事情で参加出来なかった子ども達や幼児や中高生など、幅広い年代の子どもの参加があり、「つくってみよう！」自体への参加者が増加した。「次のつくってみよう！は何～？」と楽しみにしている子どももいて、より幅広く周知出来たと思う。

先に製作を終えた子どもが他の子どもに作り方を教え合ったり、子ども達の豊かな創造性と想像力で工夫を凝らした作品を作り、新たな遊び方を考え出す様子が見られた。大人の感性を押し付けるのではなく、子ども達の自由な発想を引き出すことが出来たのではないかと思う。

8月、3月にはアトリエじどうかんの中井先生の協力を受け、亀田の伝統工芸である「亀田織」を使用した「亀田織バッジ作り」、「亀田織巾着作り」も実施した。保護者の中でも亀田織の存在を知らない方もいて、地域に根差す児童館として、特産物を発信するための良い企画となったと思う。

幼児、小中高生共に物作りの楽しさ、完成した時の達成感や完成度、そして家に持ち帰り、家族にも喜んで頂いた様子が伺えたのが何よりだった。

## （課題と対応）

来館した自由なタイミングで参加出来る工作となるように、一人または友人と一緒に製作出来るような、作り方が単純で分かりやすい簡単な物を提供した。作り方も創作活動室に掲示し、見ながら作れるようにしたが、やはりどうしても職員を頼ってしまう子どもが多かった。自由製作はより大勢の子ども達が参加出来る利点もあるが、製作の為に職員が時間を割けないもどかしさもあった。また、1か月間という長い期間での提供となるため、材料も多めの準備が必要となる。子ども達は、大人の感性で凝って準

備をしたものよりも、絵の具で色を塗る等の単純で自由度の高い作業の方が楽しそうに創造力を働かせている様子も見られた。したがって、今後も「多めの準備」「より単純な作り方」を意識して、子ども達に提供していきたい。

## ② 遊戯室で遊ぼう！（遊戯室）

(8/20、9/15、10/12、11/12、12/28、1/25、2/9、3/26、3/29)

(自己評価)

新型コロナウイルスの感染対策のため、開始前と終了後の手洗い・消毒、マスクの着用、遊戯室の換気を徹底し、三密を避けるように内容を工夫して集団遊びを提供した。普段子ども達が遊戯室で遊んでいるのはドッジボールやサッカーが多いため、一味違った「ペットボトルリレー」や「ジャンボオセロ」、「ハンカチ落とし」等の遊びを提供してきた。その中でも、「三步ドッジ」はイベント後も子ども達の間で流行し、現在でも日々楽しんでいる姿が見られる。

(課題と評価)

毎月、館内掲示のポスターを見て楽しみにしていた子ども達。改めてPRの大切さを感じた。

また、今年度は隣接するひまわりクラブ第一の子ども達の参加もとても多かった。ゲームの途中で保護者のお迎えで子ども達が帰ってしまい、チームの人数調整が必要であることが度々あった。ひまわりクラブの支援員の方々との打ち合わせや共通認識の重要性を感じている。

コロナ禍で遊戯室での遊びがマンネリ化している中で、子ども達に新鮮で新しい遊びを多く提供することが出来たと思う。分かりやすいルールで大勢で楽しむことの出来る遊びを、学年・性別問わずに、皆で楽しむ笑い声に児童館が活気付いた。今後もコロナの安全対策をしっかりとしながら、身体を動かすことが大好きな子ども達の欲求を満たすことの出来る遊びを提供していきたい。

## ③ シアター（遊戯室）

(8/4、1/5、3/29)

(自己評価)

今年度も子ども達の長期休みの間に一度ずつ行った。

幼児から小学生に加えて、隣接するひまわりクラブ第一の子どもたちも多く参加し、みんなで鑑賞を楽しんだ。中には感動して涙を流す子もいて、映画の世界に夢中になっている姿が素敵だった。家で観るテレビとは違い、友達同士と一緒に大きなスクリーンで観るのも新鮮だったと思う。長期休みの特別感を味わう事が出来ていた。

(課題と対応)

今後も子ども達の興味関心をリサーチしながら、子ども達の楽しみの1つとなれば良いと考えている。長期休みの時やそれ以外でも、ひまわりさんや親子さん、中高生と次年度も相談しながら、テレビとスクリーンをそれぞれ活用しながら臨機応変に行うようにしていきたい。

また、今後はDVDのレンタル事業が減少していく傾向があるため、シアターの開催方法も検討していく必要がある。

#### ④ アトリエじどうかん（創作活動室）

(9/7、10/5、11/2、12/7、2/1、3/1)

##### （自己評価）

ぬり絵が大好きな低学年とひまわりクラブ第一の子ども達の参加が目立った。初めて「水性色鉛筆」に触れ、鉛筆なのに水を付けて描くと絵の具のように色が広がる様子に感動していた。水性色鉛筆の他にも水で薄めたコーヒーや白い修正ペン等も使い、普段とは違うぬり絵を毎回楽しみにしている子ども達も多かった。同じ絵でも子ども達の色使いで雰囲気ガラリと変わり、個性的な作品が多く完成していた。

##### （課題と対応）

興味のある小学生が増え、ひまわりクラブ第一の子ども達も加えて毎回多くの子ども達が参加してくれている。皆がすごい集中力で、時間設定は30分であるが、毎回約1時間かけて丁寧に色を塗っている。今後も子ども達の反応を見ながら、中井先生と協議を重ね、小学生や幼児親子さんの興味を引くような内容や開催方法を検討し、充実させていきたい。

#### ⑤ サッカー教室（遊戯室）

(10/7、10/21、11/4、11/18、12/2、12/16、1/6、1/20、2/3、2/17、3/4、3/17)

##### （自己評価）

地域のサッカークラブの監督を招いて、毎月第1・3水曜日の15時半～1時間開催しているサッカー教室。小学1～4年生の間で評判が広まり、毎回大人気のイベントとなった。小学校でも児童館のサッカー教室の話題が上がるようになり、「今日はサッカー教室ありますか？」と小学校の先生から問い合わせがあったり、隣接するひまわりクラブ第一に入る新入生の保護者から、ひまわりクラブの説明会で、「児童館のサッカー教室に参加させてほしい」という要望が出るほど、子ども達、保護者共に期待度、関心度の高さが伺える。

監督が、毎回小学1～4年生までの男女30人前後の子ども達を上手に振り分け、場所を区切り、全員が楽しめるような工夫をして下さっている。基本技術もゲーム性を持たせて盛り上げてくれ、試合もルールは二の次。まずは「楽しむ」ことを優先に見守ってくれていた。半年を通して、3月には日々の練習の成果を試す集大成のサッカー大会に繋げることが出来た。

##### （課題と対応）

とても人気の高いイベントで、どんどん参加者が多くなっている。限られたスペースの中で危険に繋がることもあるため、新年度の参加状況の様子を見つつ、開催回数を増やす等、安全に開催するための方法を監督と協議をしながら、考えていかなければならない。

#### ⑥ その他各種イベント

- ・鬼滅の刃クイズ（4月～8月）
- ・ひよこ広場/水遊び（6/24、7/1、7/8、7/15、7/22、7/29）
- ・作って飾ろう！（七夕飾り）（6/22～7/4）
- ・7月4日にあいましょう（七夕）（7/4）
- ・おいしいクイズチャレンジ（7/22～7/31）
- ・亀田縞バッジ製作（8/4）

- ・クイズかめリーグ (8/7)      ・バドミントン大会 (8/27、9/23)
- ・すみっコぐらしクイズ (8/1~31)
- ・育児イベント/家庭教育講演会「おしえて！ゆたぴー先生」(9/28)
- ・ハロウィン祭り (10/24)      ・育児イベント/ベビーマッサージ (10/29)
- ・音楽会 (11/22)      ・育児イベント/べびまっする (11/27)
- ・クリスマス会 (12/19)      ・ひよこ広場/クリスマス会 (12/23)
- ・新春カルタ大会 (1/18)      ・筆DEあそぼう！ (1/4~31)
- ・チャレンジ！むかしあそび！ (1/9、10、16、17、23、24、30、31)
- ・ぬり絵コンクール (夏休み・冬休み中)
- ・ひよこ広場/豆まき会 (2/2、3)      ・鬼を探せ！ (2/3)
- ・育児イベント/親子で運動遊び (2/16)      ・なわとび大会 (2/20)
- ・ひよこ広場/ひなまつり (3/3)      ・ひなまつりゲーム (3/2、3)
- ・家庭教育講演会「親子DEお悩み解決お笑い授業」(3/21)
- ・なっちゃんとのレッツ！ダンス (3/25)      ・卒業・進級お楽しみ会 (3/28)
- ・サッカー大会 (3/31)

(自己評価)

新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、定員の設定と規模の縮小、三密の回避等、感染対策を実施しながら、子ども達に楽しんでもらえる各種イベントを開催することが出来た。10月に開催した「ハロウィン祭り」では、初めての試みとして、氏名や当日の体温、連絡先を記入する「受付用紙」を事前に配布し、参加者には当日持参してもらうようにした。また、お祭り中は館内の人数制限かつ入れ替え制を取り入れ、館内全てをお祭りの各ブースとした。新しい開催方法であったが、従来と比べて受付や館内把握等、イベント運営がスムーズとなり、利用者も余裕のある館内でより安全に楽しむことが出来ていた。コロナ禍の中で生まれたイベントの形であったが、コロナに関係なく今後もこの開催方法は続けていきたい。

(課題と対応)

例年では、「ふゆまつり」や「新春お楽しみ会」等のイベントにボランティアとして、亀田東小学校校区コミュニティ協議会の方々をお招きしていたが、コロナ禍のため今年度は全て中止し、職員のみでイベントを開催してきた。コミュニティ協議会の方々が高齢の方が多く、心配な面はあるが、みなさんが児童館での活躍にとっても意欲的かつ協力的である。来年度以降は、少しずつでもコミュニティ協議会との連携も復活し、さらに深めていきたいと思っている。

また今年度は、コミュニティ協議会かつ地域コーディネータをしている方から声を掛けて頂き、初めて亀田東小学校1年生の「不審者対応訓練」の授業に、ボランティアとして協力させて頂いた。コロナ禍で連携や人との繋がりが希薄になりつつある中、少しでも児童館として地域の役に立つことが出来た。今後も、地域の子ども、地域の人たちと共にある児童館を目指して運営をしていきたい。

⑦ 移動児童館

(8/6、18)

(自己評価)

今年度は、コロナ禍において危機意識が高まった事、三密を避けるためにカブラ遊びを中止した事により、ひまわりクラブや保育園等の各施設からの「移動児童館」の依頼が減少したり、また依頼をお断りすることも度々あった。カブラ遊びの提供を求める声は多く、ニーズの高さが伺える。

「亀田ひまわりクラブ第二・第三」には、夏休み中に2回ずつ呼んでいただき、コロナ禍でも楽しめるクイズ大会や、紙と鉛筆だけで楽しめるビンゴゲーム・三角取りゲーム・数字繋ぎゲームを提供した。ひまわりクラブの支援員さんにも、「こんな遊びがあるんですね！」と喜んで頂けた。少人数で接触の少ない遊びであるため、「いどうじどうかん」後も、ひまわりクラブ内で日常でも楽しめる遊びを提供できたと思う。

(課題と対応)

来年度以降は、遊ぶ前後の手洗い・消毒、マスクの着用を徹底し、カブラ遊びの提供を再開する。また、江南区内の全ひまわりクラブを「いどうじどうかん」として回ることを目標とするため、広報活動に力を入れていく。「いどうじどうかん」は、こちらから押し掛けていく訳にはいかず、各施設に呼んでもらうことで成立する。「いどうじどうかん」としてカブラ遊びや集団遊び等、どんな遊びが提供出来るのか、ひまわりクラブのニーズを聞きつつ、職員間で協議しながら、より良い広報、提供をしていけるよう努めていく。

2 中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

(自己評価)

今年度は、下半期から中高生の来館が増加し、部活の休みである水曜日の放課後や休日に、遊戯室で思いっきりサッカーやバレーボールを楽しんでいる姿が見られた。素直で優しい子ばかりで、館内が混み合ってくると、部屋の移動など三密回避に快く協力してくれていた。時には小学生とサッカーやドッジボールをして一緒に遊んでくれたり、イラストが得意な子は小学生にぬり絵を教えてくれる等、新たな異年齢交流が多く見られた。上手なピアノの演奏や縄跳びの「はやぶさ」の披露、小学生にはない大迫力のスポーツの試合をする中高生の姿に、小学生が拍手や歓声を送るなど、児童館にさらなる活気が増している。そんな中高生の姿を憧れとする小学生もいて、中高生一人一人の自信に繋がっていると思う。

(課題と対応)

より多くの中学生の利用を受け、一人一人の目的やニーズに合った様々な「スポーツ大会」や「学習支援」、「工作」等のイベントを提供していきたい。部活動や塾、大会、習い事等でイベントの日程を決めても来館出来ないケースが多々あるため、特に日程を決めず、〇〇週間やその日の来館状況を見て行うゲリラ開催等の形で、行っていく。

まずは、忙しい中でも児童館を思い出して遊びに来てくれているため、一人一人を常に笑顔で迎え、帰る時には「またね！いつでも待ってるよ！」の気持ちで送り出してあげようと思う。

### ① 遊戯室で遊ぼう（中学生）

（自己評価）

コロナ禍において部活動の制限があったり、大会が中止になってしまったりと、体力を持って余している中学生たち。発散させる場を求めているのが見受けられ、遊戯室で遊べることを思い出して、久しぶりに児童館に遊びに来てくれた子たちが多かった。その子たちに毎月第一・第三日曜日 午後5時～の「遊戯室で遊ぼう」の時間がある事を伝えると、小学生の頃から来館していたにも関わらず、「え、そんなのあったの!？」と驚いていた。意外と中学生の「遊戯室で遊ぼう」が周知されていなかった事実を思い知らされた。その後は友達を誘って参加し、大勢でサッカーやバレーボールを楽しむことが増えている。中学生にとって思いっきり体を動かすことが出来る貴重な時間と場所であり、ニーズの高さが伺えた。チラシの配布等でより周知を図っていきたい。

（課題と対応）

思っていたよりもイベントの周知がなされていなかったことを受け、今年度卒業する小学6年生に向けて、「じどうかんだより4月号」に「遊戯室で遊ぼう」のPRをする特別記事を載せ、配布した。今後は、亀田中学校・亀田西中学校にもチラシの配布やポスターの掲示を依頼することも考えている。また、参加者が増えたことにより、隔週開催であったところを、来年度から毎週日曜日の午後5時～の開催に変更した。より多くの中学生に参加してもらい、その日の参加状況を見ながら、学年対抗や学校対抗のスポーツ大会をゲリラ開催していきたい。

## 3 子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

### ① こども会議（創作活動室）

(6/27、7/11、9/12、10/10、11/7、12/12、3/13)

（自己評価）

コロナ禍においてイベントが開催出来ず、こどもクラブのメンバーが集まって話し合いを行うことも、イベントで活躍することがなかなか叶わずもどかしい1年の始まりであった。控えめながらやる気に溢れ、優しい気持ちを持ったこどもクラブの子たち。「クイズかめリーグ」や「ハロウィン祭り」、「クリスマス会」、「新春カルタ大会」等で職員と一緒にイベントの運営を行い、一人一人が責任を持ち、自分たちで工夫もし、なおかつ楽しみながら活躍してくれた。こどもクラブの発案で、3月の「卒業・進級お楽しみ会」では「ビンゴ大会」を開催した。こどもクラブの主体的な活動が少しずつ出来るようになってきている。また、中にはこどもクラブにお褒めの言葉を頂く保護者も多くいて、こどもクラブ一人一人の自信や達成感に繋がったと思う。学校や家庭以外で、どんな子ども達でも活躍し輝ける場として、今後も児童館はあり続けたい。一人一人の自己肯定感を育み、今後の中学、高校、大学、社会にと繋がっていける人材に成長してほしいと願っている。

（課題と対応）

頼もしかった6年生2名が卒業し、新たに3、4年生の新メンバー5名を迎えて再出発する来年度。既存の子ども達も一つずつ学年が上がるため、新しいメンバーも温かく迎え入れ、卒業する子達の背中を追って、さらなる成長をしてほしい。また、ようやくこどもクラブからの意見ややってみようという意思も出るようになってきたため、企画

から準備、運営、開催まで全てこどもクラブ主体のイベントの開催を行っていきたい。より主体的にのびのびと活動できるよう全面的にサポートし、子ども達の主体性や意欲を育てていく。新たなメンバーで新しい風を吹かせてくれることを願っている。

#### 4 子育て家庭の支援

##### ① ひよこ広場（毎週水曜日10時30分～）

（自己評価）

コロナ禍において休館措置後、6月から再開。今年度の夏は各施設でプール遊びが中止になったことを受け、「水遊び」からスタート。「絵の具遊び」や「泥んこ遊び」、「しゃぼん玉」、広い遊戯室を使った「かけっこ」や「ボール遊び」など、お家ではなかなか出来ない児童館ならではのダイナミックな遊びを提供した。再開当初は、なかなか参加者が集まらなかったが、HPのブログにPRのために写真を掲載すると、沢山の皆さん達の目に留まったのか、回数を重ねるごとに参加する親子も増え、毎回楽しい時間を過ごすことが出来た。また、参加する子ども達の年齢や入園前の時期等の状況を見ながら、それぞれに合った集団遊びを段階的に提供できたと思う。保護者にとっては、他では出来ない遊びを、子ども達のペースで、自由に遊べる環境が心地良いのだろう。今後も安心・安全で楽しいと思ってもらえるよう環境を整えていきたいと思う。

（課題と対応）

今年度まで常連として参加してくれていた子たちの大半が春から保育園・幼稚園に入園することが決まっている。来年度からは参加する子どもたちの年齢がガラリと変わることが考えられる。また新たな常連さんを作る努力をしていかなければならない。そして参加者の様子を見つつ、親子のニーズにしっかりと耳を傾けながら内容に柔軟性を持たせていきたい。来年度以降も安心・安全・楽しい遊びを提供していく。

##### ② 子育てイベント（毎月1回）

（自己評価）

お母さん達の声やニーズをリサーチしながら9月から毎月行ってきた。親子の触れ合いの場になったり、お母さんのリラクスの場になったりと様々な面で好評の場であり、親子で喜んでもらっていた。

今年度は、特にお母さんたちの「保育園選びについて知りたい」という要望を多く受け、亀田地区公民館との共催で、「家庭教育講演会 おしえて！ゆたぴー先生」を開催した。新潟県立大学の齋藤教授を講師にお招きし、「保育園・子ども園・幼稚園の特徴について」「子どもの心身の育ち（特徴）と親子の心構えについて」の講演を行った。多くの方に参加してもらい、メモを取りながら複雑な新制度についての分かりやすい説明や、先生ご自身の体験談・エピソードに耳を傾けていた。子ども達は遊戯室の後ろに設けた玩具のコーナーで、おままごとやトミカで遊んでいた。完全な親子分離は出来ないが、親子それぞれが安心して参加できる開催の方法であったと思う。

終了後は個人的に質問出来る時間を設けると、大勢のお母さん達が列を作り、先生に質問をしていた様子に興味の高さが伺えた。

今後も、保護者の興味のあることをリサーチし、講演会やリトミック等の様々な育児イベントを開催していきたい。

#### (課題と対応)

今年度は、幼児親子だけでなく、小学生の子ども達と保護者に向けての講演会も行った。「家でゲームばかりして困る、約束の時間もなかなか守らない」という保護者の声を多く受け、亀田地区公民館との共催で、「家庭教育講演会 親子DEお悩みお笑い授業」を開催した。新潟お笑い集団NAMARAの森下英也氏をお招きし、ゲーム・SNSの使い方について、親の言い分・子どもの言い分をそれぞれ出し合った。どんどん進化し続けるゲームやSNSの世界。一緒にその世界を共有し、理解出来るようなコミュニケーションのきっかけになったのではないかと思う。募集の際に保護者の方は興味を持ってくださるが、子ども達には「ゲームをしたらダメって言われそう」とマイナスなイメージを持たれてしまった様子であった。また、親子一緒に話を聞くという初めての試みであったが、保護者の手前、なかなか子ども側からの意見や気持ちが出にくいという面も見られた。PRの文面や開催の方法など、次回に向けての課題も見え、初めての企画だったが、次に繋がる手応えを感じている。

今まで小学生の親子に向けての講演会はなかなか開催していなかったが、保護者からの困りごとや抱えてる課題は日々の関わりの中でよく見えてきている。今後は、幼児親子のみに限らず、より幅広くニーズを拾い上げられるようアンテナを高く張り、多くの年代に合った様々なイベントを開催していきたい。また、一つのテーマに対し、保護者編・子ども編とそれぞれで話を聞く時間を分ける等といった、開催の方法を模索し、工夫していく必要がある。

#### 5 その他地域の児童の健全育成に必要な活動

今年度の亀田東児童館運営協議会は、第21回を新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止とし、資料のみ各委員に配布・郵送した。第22回を2月15日(月)に開催し、亀田東小学校長をはじめ、亀田中学校長、亀田中学校地域教育コーディネーター、亀田東小学校区コミュニティ協議会長、江南区社会福祉協議会、指導保育士、保護司、児童委員の方々を委員とし、委員7名で行った。1年ぶりの開催となり、皆さんの元気な姿に安心した。コロナ禍での利用者推移・運営状況・イベント実施等の活動と、今後の活動予定を報告し、委員の皆さんからご意見を頂いた。中学生の利用を増やすためには・・・、長期休みの昼食持参について・・・などについて意見交換を行った。時代の流れと共に利用者のニーズにも変化が見られることを意識し、今後の運営を考えていきたいと気持ちを新たにした。そして何よりも、委員の方々が児童館の必要性を理解していただき、児童館を一緒に広め、盛り上げて下さることが心強かった。地域に根づく児童館を目指し、来年度以降もより良い児童館にしていくためにご尽力いただけるよう、児童館運営を考え、相談し合っていきたいと願っている。

#### 総括・評価

コロナ禍において、2度目の休館やイベントの縮小、消毒作業の徹底など、イレギュラーな動きの多い1年間だったが、職員一丸となってアイデアを出し合い、連携・協力し合って乗り越えることが出来たと思う。with コロナとして生活の中で制限の多い中でも、新規来館者も含め、想像以上の多くの方に来館してもらえたことが私たちの何よりの励みとなった。常に「利用者のために何が出来るか」を第一に考えて運営を続け、新たなイベントの実施、開催方法の改良を行い、小学校や行政との連携をより深めることが出来た。コロナ禍においても、活動に制限を加えて縮小するだけでなく、さらに一



歩進んで新たな試みを続け、利用者により良いものを提供しようと努力し続けたことは大きな成果だったと感じている。その結果として、幼児親子・小学生・中学生それぞれの新たな利用者が常連となってくれたり、イベント時に「大変な中でも楽しいイベントをありがとうございます」と声を掛けて頂くなど、より多くの方々に児童館での活動を楽しんでもらえたことを実感している。

今後も利用者の皆さんと歩む「亀田東児童館」であり、地域の拠点となれるよう努力をし、日々の業務を大切に、地域の方々や子ども達に、一步一步寄り添えられる児童館を来年度も作り上げていきたい。新型コロナウイルスの感染拡大状況は未だ収束せず、不安ではあるが、地域の方々や行政と共に連携を取り合い、子ども達にとっての居場所作りの最善策に心掛けていきたいと思う。